

## 新宮山彦ぐるーぷ 第1711回

桜井市音羽山観音寺 「奈良県景観遺産」 展望台道普請

実施日 平成二十五年七月二十八日(日)～二十九日(月)曇時々晴翌日雨

工程 午前九時観音寺駐車場集合 九時四十分境内にて朝礼 十時半現場到着作業開始 十二時半～十三時半昼食 十六時半作業終了  
翌日は雨天の為中止 九時に下山して解散

参加者

山彦 川島 功 山上皓一郎 根木俊明 畑林秀味 榎本康夫

信者組 森沢義信 榊本真仁 田中稔昭 乾 克巳 山尾婦人(別動)

南音羽地区 約十名 (別動) 細田 安田 松本 丸岡 丸岡友人3名 上名 寺2名(別動)

作業内容

●奈良県景観遺産指定の展望台に登山道を新設する。

◎作業分担任として山彦と信者組が展望台上部よりスロープ道を新設する。

音羽地区は別動班として登山道取り付きから階段道を新設する。

○上部新設ルートの現場視察とルート決め ○足場の刈り残し笹の刈り込みと撤去○倒木処理スロープ土留め用○立木の伐採 スロープ土留め用

○原木の皮剥○原木の予定地への運搬○スロープ道での杭打ちと土盛り

○展望台へ立木利用のベンチを二カ所設置

○寺へのお布施 2万円

◎提供品 新宮山彦ぐるーぷ(ビール1カートン)川島(ビール半ダース・

社員研修寄贈品)甘夏35個スイカ2個ミニトマト)真砂(ドリッポコ

ーヒーとケーキ)榊本(ビール12本清酒やたがらす一升)森沢(焼酎

三岳)山上(清酒越後侍)山尾(シシ肉シカ肉アユ・アマゴ干物等多数)

今年2月に新宮山彦ぐるーぷと信者の人達で初めて手を入れた展望台であったが、その後奈良県の視察があり「奈良県景観遺産」に登録された。その日は天気の良い日だったので、奈良盆地を見渡し遠く明石海峡大橋まで俯瞰することができた。

山主のいた展望台であったが、以前に山主からこの地は寺に寄進するという申し出を、管理が大変だからとお断りされたことがあった。

登録を機に、寺と南音羽地区から山主に改めて寄進を要請され、一町歩に至る山林を登記することになった。

一町歩の原野は10数年程前までは杉や桧が生い茂る美林であったが、台風によって薙ぎ倒され荒地地となった。放置された荒地地には背丈を越すスズタケが密生して人の進入を拒んできた。

2月に我々が整備したのは約一反ほどの面積であったが、4月に残りの9反を寺が人を雇い刈り込んだ。草刈り機で刈り込んだだけの地には一面に笹が放置されたままであった。6月23日に村と信者の有志が集まり、この笹の撤去と取り付き口から展望台までに遊歩道を付けるため、ルート決めとルート上の刈り残し笹の刈り込みをされた。

6月末に観音寺を訪れた時に、住職から「7月28日に村の人達が出て展望台への道普請をするので、山彦さんにも応援に来て下さる様にお願ひして貰えないだろうか」と打診があった。私は「山彦は道作りのプロみたいなものだから、来てくれれば良いのが出来るが新宮だけでなく遠くは申本や尾鷲のメンバーもいる。期待されても困るが一応相談してみます」と返事をした。

新しく代表になられた川島代表にメールを送り、詳しくは7月4～5日に予定している社員研修の時相談したいかと申し入れをした。

川島代表は快く引き受けて下さり、時期も村人や信者の人達が出る7月28日が良いのではないかとということになった。

山彦が手掛けるということになれば、失敗は許されない。何事も段取り八分で決まる。特に参加グループは山彦、信者、南音羽地区の3グループになり、それぞれの利害や解釈も異なる。特に展望台を取り巻く山林は、三共山や二共山に取り囲まれており倒木を利用することにも気を遣う。無断で植林を伐採す

ることなどはとんでもないことになる。丁度行仙の社員研修から戻ると瀧本さんから山行のお誘いがあったので、音羽山展望台の下見と春にやり残した階段道の仕上げの為に佐藤さんも誘って出掛けてみた。すでに取り付きから展望台までのルート設定がされており、ルート上の残り笹も刈り込まれ、コースの半分ほどまでの所要所には階段に使用する杭木と横木が荷揚げされていた。

瀧本さんと相談して村のチームは取り付きから階段道だから我々山彦は展望台上部から倒木と伐採木を利用してスロープを主体にした道を作ることにした。後日のために、仮に決めた予定ルートに沿って、持参した荷造り紐でマーカーキングをした。2月にやり残した道も瀧本さんが見事に仕上げてくれた。

その後、寺、山主、地区の責任者に面会して遊歩道設置についてのコンセンサスを得るために三度ほど赴き、ついでに寺で準備できる道具の確認と調整も行ってきた。23日に訪問した時は丁度毎日新聞の奈良支局から展望台の取材があり現地案内と取材に立ち会い半日を費やした。記事は7月30日奈良版の「なら羅針盤」6段のワイド版で掲載すると言っておられた。

28日作業当日は桜井駅に8時過ぎに到着される森沢さんと信者の細田さんを出迎えるために自宅を6時半に出た。定刻に到着されて観音寺駐車場に到着すると信者の人達が揃っており、程なく新宮組が到着した。9時前には寺の軽トラを降ろしておいて貰う手はずであったが9時を過ぎてても到着せず、電話も繋がらずしているところへ到着。10分遅れだった。

イライラすると予定していた段取りが狂う。全員に渡すために書いた作業手順や役割分担表をカメラと一緒に車に忘れていった。

境内で山彦と信者組の朝礼を9時45分頃から始め、記憶していたマニュアルを全員に伝えた。特に今回は人数が多く、チェーンソーや草刈り機を複数台使用する。事故防止のために使用は限られた人だけに限定した。

取り次ぎ口からの作業は地元組が進めていて、今朝は8時からの開始とかで賑やかな声を聞きながら現場へと向かった。今日の作業は人数が多いので土留めに使用する倒木処理と不良材の伐採を行い、予定している場所に運搬しておけばベストと思っていた。後は少数の人数でも作業を進めることができる。

チェーンソー使用を川島・根木・榎本さんに依頼して、まず倒木の処理から

して貰った。草刈り機は森沢さんと信者の松本さんに依頼した。倒木材の表面は腐っているものが多かったが、芯は堅くしっかりしている。さすがは桧材だと感心する。不良木の伐採は倒れる角度に気を配ってもらいチェーンソーを入れるが、なかなか思う方角には倒れずにてこずる。更に伐採した桧は檜皮を剥くことにした。



展望台上部から腰掛けベンチの製作中

十分な事前打ち合わせも出来ない混成部隊はややもすると烏合の集団となる。もつと事前に作業手順と役割担当を徹底しておくべきだったと反省した。松本さんと森沢さんが懸命に刈り残しの笹を刈り込んでくれている。それでも残りの笹で滑る。滑って手を着くと笹が手のひらを突き刺し出血する。衣服も破れる。僅かばかりの面積の笹刈りでもこれほどてこずる。南奥駆道での刈り峰行の困難さを実感した。

昼前になってから、弁当を寺へ頂きに榎本さんと2人で下山。下山ついでに駐車場までモノレールと軽トラを運転して忘れてきた作業マニュアルとカメラを取りに行った。昼食が少し遅れて12時半頃からとなった。川島代表が差し入れて下さった甘夏とミニトマトが実に美味かった。一時間ばかり休憩を取ったが川島代表が一人で檜皮剥きを始めたのを機に、全員が作業の再開に取り掛かる。展望台上部の倒木と二本の立木を伐採して大小併せて20本ちかくの数になった。作業の形を部分的にも完成したものととして残したいので、展望台上部に腰掛けベンチを作ることにした。伐採木を立木から立木に掛けて長い土留め風腰掛けを二カ所に設置した。

いよいよ土留め用丸太の運搬となりほぼ全員で行った。ロープを使用する者二名、三名のグループを組み担ぎあげる人達。炎天下での作業は思ったより過酷なものとなる。しばらく顔が見えないと思っていた榎本さんが手首に湿布薬を巻き付けて「丸太の下敷きになり手首をやってしまった」と痛そうに報告してきた。見ると少し腫れていて痛そうだ。しばらく木陰で休憩するようにと言ったが「戦力になれずに申し訳ない。片手でもできる作業をする」と言っ止を振り切って動き回った。

スロープ道への丸太運搬は傾斜もあり困難なものであった。スロープへの土留め材の位置は川島代表に主にやって頂き、設置された所から杭を打ち、番線で留めていった。

今日の作業の用途は土留め材の丸太を予定地に運搬しておくことが最大の任務と考えていた。あとは少人数でも杭打ちと土盛りはできる。

平行してスロープ予定地近くの立木の伐採を、根木さんと榎本さんをお願いして、信者数人と共に倒れた丸太を予定地に運搬した。傾斜のきつい斜面なので運搬が実に難しい。引っ張る力が緩いと地面に引っかかり、強いと笹の上を滑り出し危ない。信者の四名が三時までの予定だと下山。我々も一通りの用途を立てて四時半に下山することにした。

帰り道に地元組が進めた階段道を川島さんと根木さんとで参考のために見させて貰った。なかなか立派に出来上がっていた。我々も階段道にした方が良かったかなと一瞬めげたが、傾斜角度を考えたら後々九十九折のスロープ道が

喜ばれるのではないかと思った。

寺に到着するとお風呂の準備が出来ており、順番に入って頂く。

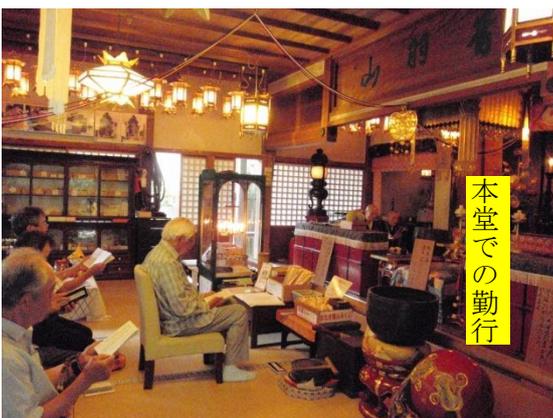
桜井の仲間である山尾登さんから前日に食材の差し入れが大量に届いていた。シシ肉とシカ肉の美味しい部位に塩焼き用のアユが大量とアマゴの干物であった。シシ肉とシカ肉はフライパンで塩こしょうで焼き、アユは山上さんの腹わたを取るを無視してそのまま塩焼きにした。塩を入れすぎて大分辛くなつたが根木さんの塩分補給に良いという言葉に救われた。

呑むに連れ本日の反省会とこれまでの反省会。特に月初の社員研修の引き受け方について議論が続出した。また、新入会員も確保して行かなければならないので、レクレーションを兼ねての山行を企画して新宮地区の新規獲得を目指すさなあかんと言うことで寝ることにした。

翌朝は六時に全員で鐘突。ZENのラジオ体操に引き続き本堂で勤行を行った。観音経と般若心経で約三〇分の厳かなひとときでした。

朝から小雨が降っている。川島代表が昼から仕事があるとのことで全員が九時に下山することにした。

帰宅後榎本さんから電話が掛かり、レントゲンで見て貰ったが骨に異常はなく、しばらくすれば腫れも引くとの報告で一安心した。 文・乾 克巳



本堂での勤行



観音寺本堂